

報告書

西日本豪雨から1年 子どもたちへの緊急・復興支援



Save the Children
100 YEARS



西日本豪雨から1年。

皆さまのご支援が、緊急下の子どもたちを支えました。

2018年7月に発生した西日本豪雨。河川の氾濫や大規模な浸水、土砂災害が広い範囲で発生し、豪雨災害において平成で最も大きな規模の被害がもたらされました。237人の命が失われ、全半壊した住家は2万棟近くに上ります(2019年1月内閣府発表)。

子どもたちは、この災害によりさまざまな影響を受けました。家が被災し、避難生活を余儀なくされた子どもたち。生活や勉強に必要な物、そして安全な遊び場を失った子どもたち。恐ろしい光景を目にしたり、生活が急に変化したことで、不安やストレスを抱えた子どもたちもいます。

そのような中、皆さまのご支援は、子どもたちが日常を取り戻すための大きな力になりました。

セーブ・ザ・チルドレンが発災直後から被災地で、子どもたちが安心・安全に過ごせる空間の提供や、必要な物資の支援などを迅速に行えたのは、皆さまのあたたかい協力があったからこそです。

皆さま一人ひとりがセーブ・ザ・チルドレン緊急支援チームの一員だと、私たちは考えています。

災害から1年を迎える今、心からの感謝をお伝えするとともに、これまでの活動とその成果をご報告します。



3,471人

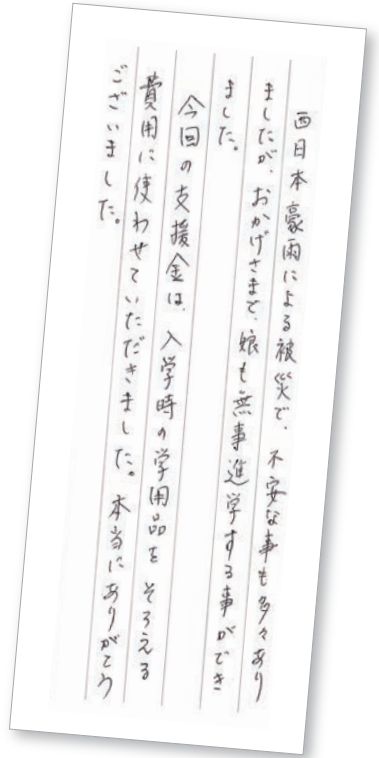
の子どもたちに
支援を届けました。

(大人を含め6,669人)

※2019年4月時点



皆さま一人ひとりが、
セーブ・ザ・チルドレン緊急支援チームの
一員です。

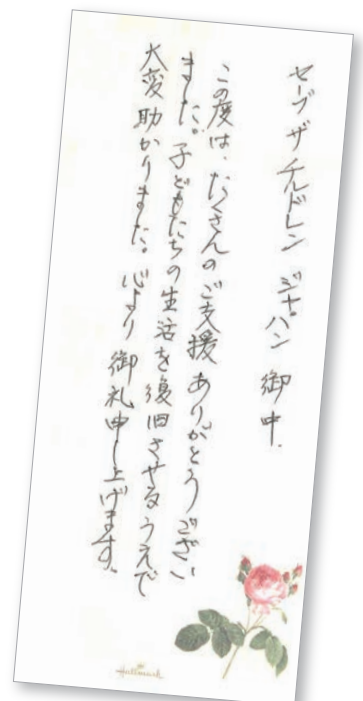
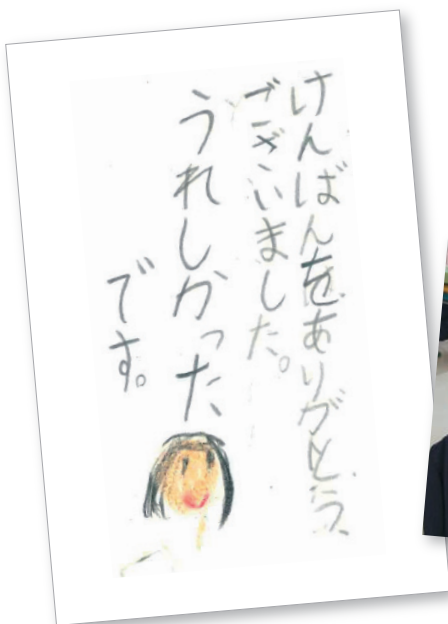


“ありがとう”

の聲が届いています。

子どもたちから、保護者から、そして行政の方々から。活動を通してたくさんの感謝の声をいただきました。

この声は、あなたへの“ありがとう”です。



緊急支援から復興支援へ。 迅速に、子どもたちのニーズに沿った 支援を行いました。

災害の発生直後から、特に被害の大きかった岡山県倉敷市を中心に、緊急・復興支援を展開。変化するニーズに対応しながら、現在も活動を継続しています。



出動準備をするスタッフ

「大雨特別警報」が11府県で発表

2018年
7月6日
~8日

子ども支援のニーズを調査

現地に入り
子ども支援の
ニーズ調査を
開始



緊急下の子どもたちの心のケア

「子どものための
心理的応急処置」の
周知や研修を開始



7月15日
から

安心・安全に過ごせる場づくり

- 子どものための安心・安全な空間「こどもひろば」を実施(7/15~16)
- 岡山県が実施した「被災地域の子どもたちの安全・安心な居場所」事業に協力(7/18~8/31)

子どもたちの施設を支える

放課後児童クラブ
(学童保育)への
備品提供



7月下旬
から

学校生活の再開をサポート

新学期に合わせ、幼稚園児、小学生、
中学生へ学用品を提供。
秋には、特別支援学校
と保育園、児童館へ
備品を提供。



8月
から

新入学や新生活を資金面で支える

卒業を迎える子どもたちに給付金を提供

11月
から

子どもたちの声を聴く

災害時に子どもたちが行った活動の
体験談を募集

2019年
6月から

活動 1



緊急下の子どもたちが
安心・安全に過ごせる空間を
届けました。

こどもひろば

同年代の子どもたちと遊びながら安心して過ごせる空間は、子どもたちが被災の影響から立ち直ることをサポートします。

「こどもひろば」を実施

倉敷市真備町の避難所に隣接した施設で、子どもたちが安心・安全に過ごせる空間「こどもひろば」を実施。「こどもひろば」とは、子どもたちが被災前の日常生活で行っていた遊びなどを通し、被災による影響からの立ち直りを支える場です。セーブ・ザ・チルドレンは「こどもひろば」を世界中の自然災害や紛争の現場で開設しています。ここでは1日約40人の子どもたちが、風船遊びや粘土遊びなどを楽しみながら過ごしました。

岡山県による 「被災地域の子どもの安全・安心な居場所」事業に協力

岡山県が主体となり実施した「被災地域の子どもの安全・安心な居場所」事業の運営に協力。子育て家庭が安心して家の片づけなどができる環境を整えるとともに、長引く避難生活で子どもがストレスや健康上の問題を抱えないよう、子どもが安全に、安心して過ごすことのできる居場所を確保することを目的に設置されました。期間中に約110人(のべ約800人)が参加し、ぬり絵やブロック遊び、子ども同士での集団遊びや、勉強などをして過ごしました。

- 運営主体：岡山県保健福祉部子ども未来課 ■ 運営総括：NPO法人きよね夢てらす
- 運営協力：総社市、岡山県立大学、セーブ・ザ・チルドレン など



子どもたちの
昼食や送迎バス
も支援



岡山県による
「被災地域の子どもの安全・安心な居場所」

保護者の声

“2階まで浸水し、家は全壊扱いになりました。
片付けが続く中、この場所があって本当に助かりました。
娘もここをととても気に入っています”

「私たちの家は2階まで浸水して、全壊扱いになりました。まさかこんな災害が自分たちの身に起きるとは、思ってもいませんでした。今もまだ現実だとは思えません。今日も一日中家の片付けをして、泥で汚れたおもちゃや写真を洗っていました。そんな中で、この場所があって本当に助かっています」



活動 2

誰もが緊急下の子どもたちの こころのケアをできるように。

岡山県で実施した研修の様子

子どものための心理的応急処置

災害という緊急時に、ストレスを抱えた子どもを傷つけないように対応するために、緊急下の子どもをこころの応急手当てである「子どものための心理的応急処置」を、子どもと関わる方たちが活用できるよう、ソーシャルメディアや研修などを通して広く伝えました。

【受講者】 放課後児童クラブ(学童保育)支援員、保育士、児童館職員、教員、自治体関係者など1,200人以上



受講者の声

“被災した子どもたちが、被災を遊びにすることで心を整理していくことを学びました”

「自分自身のストレスにも対応できず困っていましたが、今日の研修に参加して、共感できる解決策を見つけることができました」



活動 3

学用品・学校備品を提供し、 新学期のスタートを支えました。

小学生にリコーダーを提供

学用品・学校備品を提供

新学期の開始に伴い、倉敷市真備町を中心とした地域で、浸水により使えなくなったり流出した学用品や学校備品の提供を行いました。

保育園(1園)	椅子、机、靴箱
幼稚園児(208人)	運動着、園服、通園帽子、通園バッグ、文具
小学生(569人)	鍵盤ハーモニカ、リコーダー、 習字セット、絵の具セット、裁縫セット、探検バッグ
中学生(464人)	通学カバン、自転車用ヘルメット、通学用レインコート
特別支援学校(1校)	キーボード、リコーダー



通学カバン・自転車用ヘルメット



習字セット



運動着・通園バッグ

活動 4

給付金を提供し、 新入学や新生活への準備を支えました。

「給付型緊急子どもサポート ～卒業応援キャンペーン～」

被災によって進学や就職に向けた準備に支障をきたすことがないように、被災した子どもたちに給付金を提供しました。

- ・実施期間：2018年11月から2019年1月
- ・給付対象：倉敷市内で、西日本豪雨により住居が床上浸水以上の被害を受けた世帯の子ども(小学6年、中学3年、高校最終学年)
- ・給付内容：小学6年生 3万円、中学3年生 4万円、高校3年生 5万円
- ・受給者数：428人(375世帯)

保護者からのお手紙（一部抜粋）

「7月の西日本豪雨で被災し、家の周りは深い海となり家ごと失ってしまいました。家族は無事でした。

全てを失ってしまい、又娘もこれからが受験本番という時に途方に暮れていましたが、助かった事に感謝して前を向いて頑張るしかないと思いました。

被災の前からどうしても学びたいと決めていた進学先を娘は少しためらいましたが、私達夫婦は夢をあきらめる必要はないと迷わず志望校に向かって頑張るようすすめました。娘はあの暑い夏、秋と本当に頑張りました。

おかげさまで彼女の志望した大学に無事に決まり、この春から次の夢に向かって進んでいくこととなりました。

支援いただきましたお金は大切に彼女の新しい生活に向けて使わせていただきます」

現在の活動と今後の活動

災害時に避難所などで子どもたちがしたこと・感じたことを募り、体験談を冊子にして防災教育などにつなげる活動を進めています。

また、本校舎で授業を再開する特別支援学校へ、絵本など図書^の寄贈を予定しています。



(イメージ)

会計報告

ご寄付の使途をご報告します。

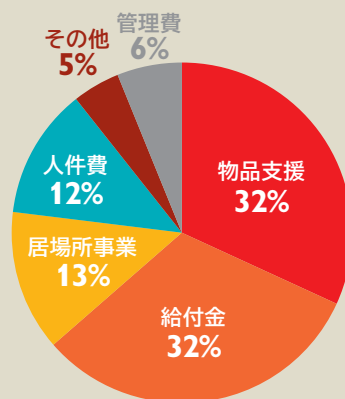
支出計 **55,477,102円**

(2018年7月～2019年4月末)

個人の皆さまや法人の皆さまからのご寄付により、西日本豪雨 緊急・復興支援として、これまでに5,500万円を超える規模の支援活動を実施することができました。

物品支援	17,670,452円
給付金	17,601,143円
居場所事業	7,414,463円
人件費	6,877,554円
その他 (初動調査、研修実施等)	2,500,015円
管理費	3,413,475円
計	55,477,102円

支出の割合





インドネシアの地震・津波被災地における緊急支援

自然災害の被災地で、紛争地で――。 世界にはまだ支援を必要としている 子どもたちがいます。

危機に備え、未来を守る
「いのち・みらい貯金箱」で、
自然災害や人道危機の緊急事態に対応します。

いのち・みらい貯金箱へのご支援にご協力ください

クレジットカードからの寄付

パソコン・
スマートフォンから
ご寄付いただけます。



いのちみらい貯金箱

検索

郵便局(ゆうちょ銀行)からの寄付

郵便振込口座: **00190-8-791030**

加入者名: いのち・みらい貯金箱

※ 備考欄に「いのち・みらい貯金箱」とご記入ください。

※ 振込手数料はご負担をお願いしております。

※ 領収証ご希望の方は、振込用紙通信欄にその旨ご記入ください。

- 企業としてのご寄付のご要望・ご相談については、下記までお問い合わせ下さい。
- セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンへのご寄付は、税の控除を受けることができます。

セーブ・ザ・チルドレンは、
子どもの権利のパイオニアとして
100年の歴史を持つ、
子ども支援専門の国際NGOです。

セーブ・ザ・チルドレンは、日本を含む
世界120ヶ国で子ども支援活動を行
う、民間・非営利の国際組織です。子ども
の権利が実現された世界を目指し、
1919年から活動しています。



創設者 エグランタイン・ジェブ



公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F

TEL: 03-6859-0070(平日9:30~18:00)

www.savechildren.or.jp

2019年7月発行